

これからの科学と 大学のあり方

21世紀COEプログラム
「持続可能な福祉社会に向けた
公共研究拠点」の視点を踏まえて

千葉大学法経学部

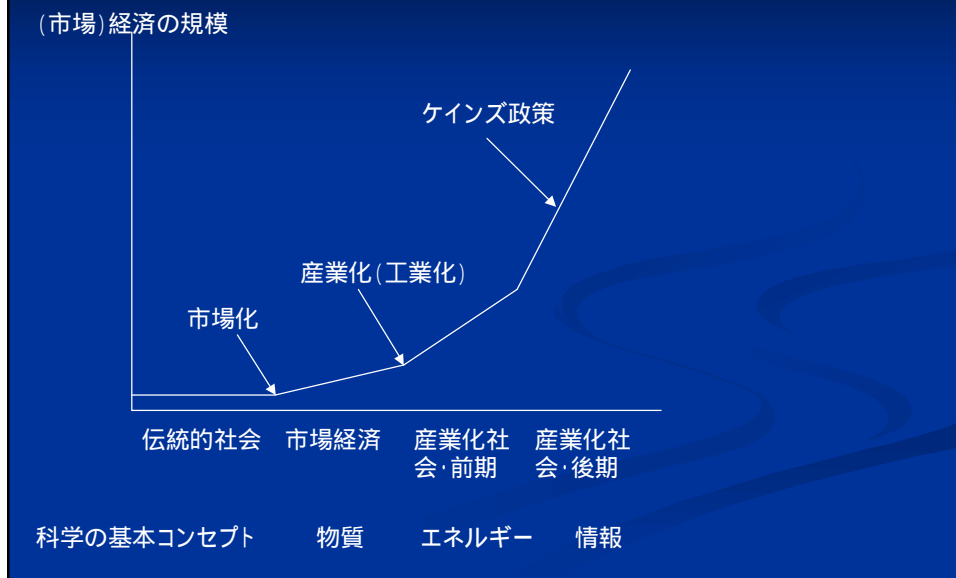
広井良典

hiroji@le.chiba-u.ac.jp

「科学」の大きな流れ

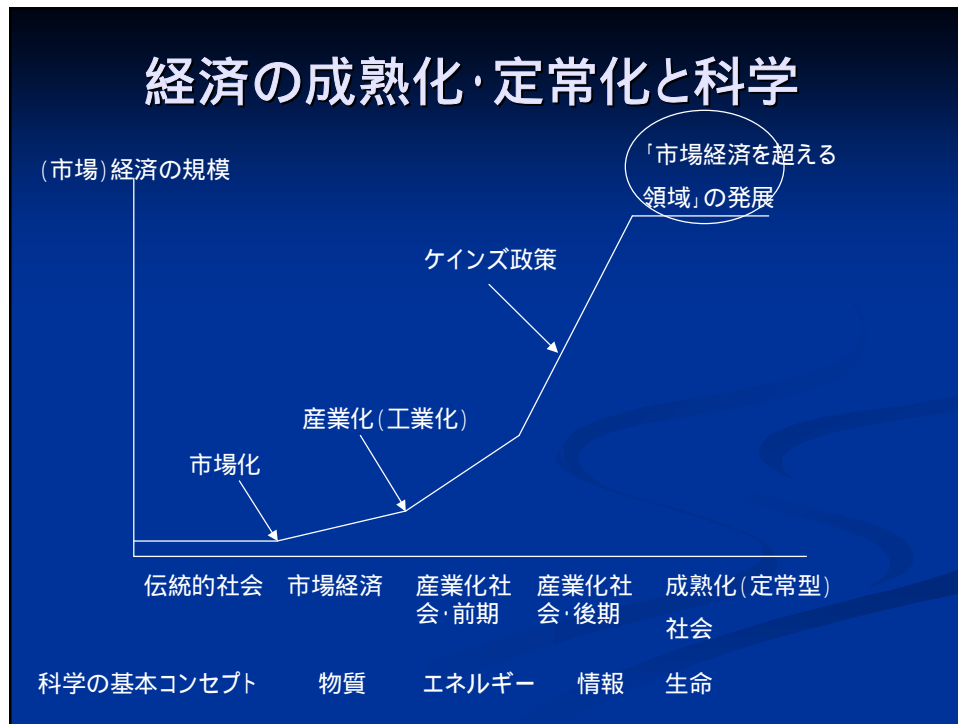
- 17世紀 科学革命 Scientific Revolution
- 19世紀 科学の制度化 産業化の時代
職業としての科学者の成立、
大学システムの整備etc.
- 20世紀後半～ (産業化社会・後期)
「ケインズ政策」(成長政策)との連動
・政府による大規模な研究投資
・「経済成長」との連動

経済システムの進化と科学



経済の成熟化・定常化

- 物質的な需要の飽和
- 「私利の追求」をインセンティブとする
システムの機能不全
- 市場經濟の“定常化”
- 「市場經濟を超える領域」の発展
… NPOなどの展開、企業の社会的責任(CSR)
営利と非営利のクロス・オーバー



科学技術における「シーズ」と「ニーズ」のずれの拡大

- シーズ・・・技術を“開発する側”の視点から見た新しい技術革新のアイデアや改良
- ニーズ・・・技術を使う側ないし“受け手”の側の、必要や要望
- シーズとニーズのずれの顕在化
 - ・例1) 新幹線の「のぞみ」
 - ・・・東京 - 大阪間が3時間 2時間半に30分短縮
 - ・例2) 高齢者ケアや慢性疾患と医療技術革新

- 「成長・拡大なき時代」の科学・技術とは？
- 科学・技術のあり方の根本的な変容？
- 科学・技術はどのような「価値」(目標)のためにあるのか
 - 経済成長？ 「豊かさ」？ スピード？
 - 効率性？

「モード1・サイエンス」と「モード2・サイエンス」

(Michael Gibbons)

	モード1・サイエンス	モード2・サイエンス
知識の創造	個々の学問分野の中で	個別の学問分野を超えた社会的文脈の中で
問題の設定と解決	特定の科学者コミュニティの中で	市民、NPO、産業界、政府などが参加
研究成果の公表	学術雑誌、学会など制度化された媒体	幅広い媒体
品質管理の方法	科学者内部	社会的な説明責任
研究組織	階層的	非階層的

「アゴラ」としての科学

(Gibbons et al (2002))

- 「アゴラ」…古代ギリシャでの一種の公共の“広場”のこと
- 「科学と社会、市場と政治が合流する、新しい公共空間」

科学・大学のこれから

- (1) NPOとしての大学 ~ 市民社会との連携
 - …大学も「NPO」の一種
 - …「大学 - NPO - 企業」というトライアングルの構築。“民学連携”
 - …NPOや市民との連携は、現実社会の「ニーズ」を理解し、そもそもどのような研究が求められているかを把握するためにも不可欠。

千葉大学 福祉環境交流センター

医療、福祉、高齢化
社会、癒し、自然、
環境、死生観、コミュニティ
などのテーマに関する
**地域のNPOと大学との
交流拠点**

情報提供機能

交流機能

相談機能

調査研究提言機能



医療・福祉・環境等に関わるNPOなど8団体が日常的・継続的にセンターを利用
・支えあう会（がん患者の会）、NPOピュア（在宅ケア市民ネットワーク）、環境パートナースhipちば 等

→ **全国的に見て他に例がない、大学とNPO等との連携の姿**

広く市民・地域に
開かれた全く新しい
大学のありかた

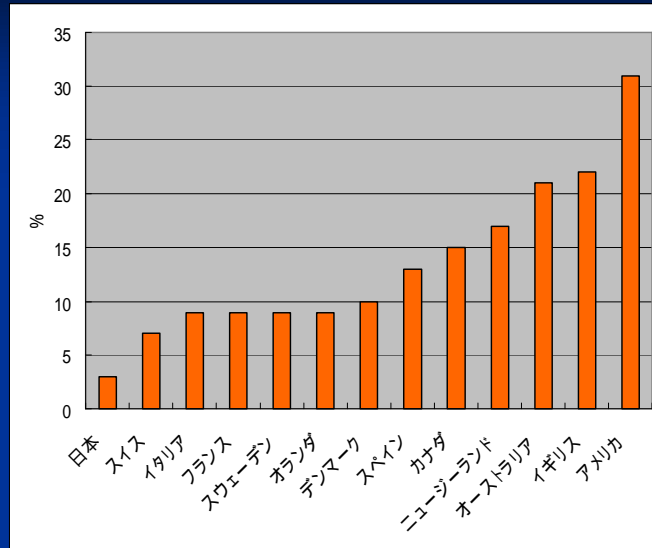
市民のニーズをダイレクトに吸収し、政策提言へ
「学問」そのものの新しい姿の提案にも
学部生・大学院生がNPO等と直接交流・参加（インターンシップなども）

大学とNPO，地域との連携拠点

科学・大学のこれから（続き）

- (2) 「編集者」としての研究者・大学
…様々な分野、人を「つなぐ」存在としての
役割
様々な知見や経験のクロス・オーバー、ア
イデアの創出、ネットワークづくり
- (3) 「社会的文脈 (social contexts)」の重要性
…問題をミクロ的な視点のみならず社会的な
事柄との関連においてとらえる

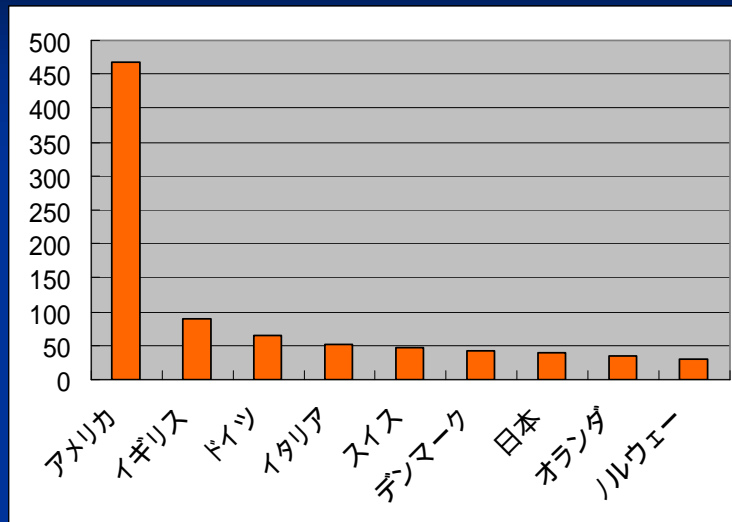
成人の肥満率の国際比較



(出所) OECD, *Towards High-Performing Health Systems*, 2004より作成。

人口10万人当たり刑務所収容人口

(2000年)



(出所) OECD, *Society at a Glance*, 2003より作成

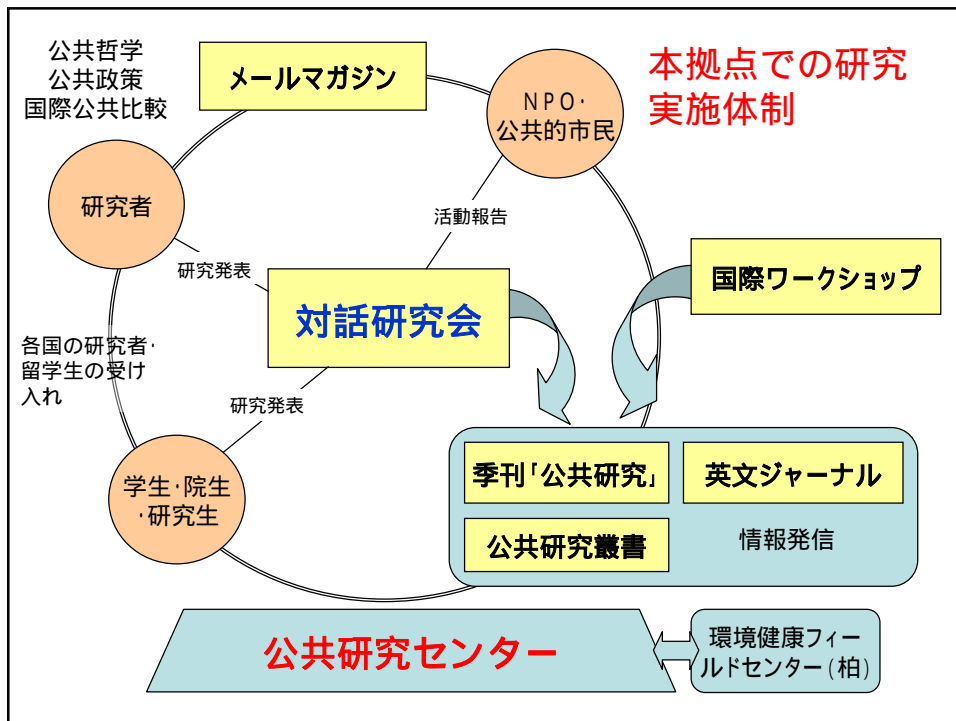
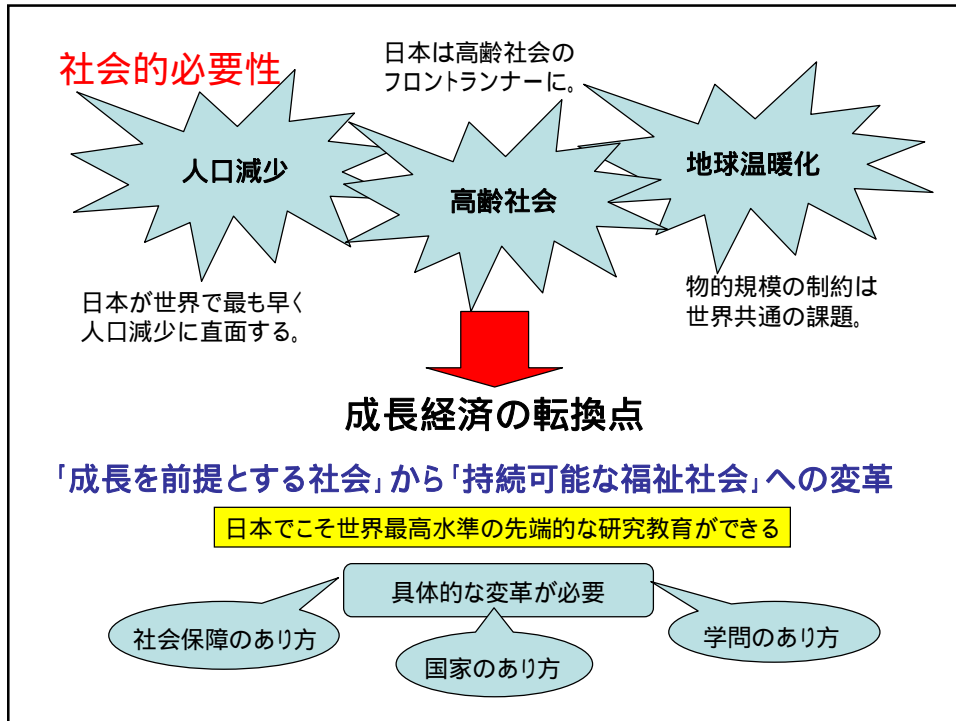
科学・大学のこれから(続き)

- (4) 地理的要素、「ローカル」なものへの注目
…「普遍性」のみの追求ではなく
- (5) 世代間交流の場としての大学
…退職者の経験の若者への伝達
高齢者と子どもの親和性
(参考) 大学発・若者仕事おこしプロジェクト

21世紀COEプログラム

「持続可能な福祉社会に向けた 公共研究拠点」

- 昨年度(2004年度)後半からの5ヵ年プロジェクト
- 3つの柱(革新性)
 - 1) 福祉と環境の融合 「持続可能な福祉社会」という社会モデル・政策の提示
 - 2) 「公共研究」という学問分野(公共政策・公共哲学・国際公共比較の3つから成る)の創設
 - 3) 市民社会との直接的な対話・交流を通じた、新しい大学そして学問のあり方の創造



COE 初年度(2004年10月)～現在 までの活動成果

- (1)4回の公開シンポジウムの開催
(うち2回は海外の研究者を招いての国際シンポジウム)

COE・公共研究センター設立記念シンポジウム(04年10月24日)

国際シンポジウム:「持続可能な福祉社会の構想ー日本とスウェーデンを含む国際比較の視点から」(04年11月9日)・・・スウェーデンから4名の研究者参加

「NGOと開発援助ー環境・貧困・公共性」(04年12月28日)

国際シンポジウム:「中国・アジアにおける 持続可能な福祉社会 の構想」(05年3月18日)・・・中国・韓国から4名の研究者参加

- 平均して100名前後の多くの参加者。
- 内容は『公共研究』に順次掲載。

COE 初年度(2004年10月)～現在 までの活動成果(続き)

- (2)17回に及ぶ対話研究会(公開セミナー)、国際ワークショップの開催
- (3)機関誌『公共研究』の創刊(現在第3号まで、年4回刊行) 千葉大学リポジトリを通じた公開
なお、『公共研究』にはNPO等の人々も寄稿
- (4)市民活動連携室オープン(05年6月)、公共哲学センター及び福祉環境交流センターの活動
市民・NPOや地域に開かれた大学へ
- (5)ニュースレターの発行、国際ジャーナル発刊(今月予定)、メールマガジン開始、ホームページ開設など

